

第7章 カンボジア産カシューナッツのマーケティング戦略の提案

7.1 生カシューナッツ市場(ベトナム・インド):アフリカ産に対する優位性

上述のように、カシュー産業の世界的な構造の中で、ベトナムとインドが一次加工の中心である。カンボジアはベトナムと国境を接するだけでなく、インドからの地理的に近い位置にある。したがって、アフリカ産カシューナッツと比べると、カンボジア産は輸送コスト、輸送期間などの面で有利である。

アフリカ産カシューナッツの輸送は、ベトナムに届くまで40日間かかるうえ、トン当たり70～80米ドルの輸送コストがかかるのに対し、カンボジア産の輸送コストはトン当たり10ドル少々であり、カンボジアにおけるカシュー栽培の拡大は、ベトナムの輸入・加工業者にとって、原料調達先の多様化だけでなく、輸送コスト面でもメリットが大きい¹⁶。

また、カンボジアは世界的なカシュー産業の中心地であるベトナムと近い距離にあるため、カシュー栽培や加工技術へのアクセスが容易である。実際に、ベトナムのカシュー産業は、カンボジアが国境を接するうえ、未開拓の土地が多いことから、カンボジアでのカシュー栽培に大きな将来的な可能性を見ている。

ベトナムでは生カシューナッツの輸入増大に伴い、品質の問題が発生している。Vinacasによると、ベトナム国内企業によるカシューナッツの年間需要量は150万トンであるが、国内では40万トンしか生産できないため、残りを輸入に依存している。2017年に、多くのベトナムの生カシューナッツ輸入業者・加工業者は、生カシューナッツの需給ひっ迫のため、熱帯アフリカ諸国からの生カシューナッツ輸入の増加を余儀なくされた。ベトナム業者は生カシューナッツ価格の高騰に加え、熱帯アフリカ諸国からの生カシューナッツについて非常に多くの品質問題に直面し、数百万米ドルの損害を受けた¹⁷。Cashew Export Promotion Council of India (CEPCI)の会長であるDr. R. K. Bhooles氏によれば、生カシューナッツを生産するアフリカ諸国の非倫理的な慣行、出荷の遅れと品質のばらつきのために、紛争件数が増加した¹⁸。その結果、ベトナムとインドの生カシューナッツ輸入業者・加工業者は、信頼できる生カシューナッツ生産・供給業者の選択に努めている。

ベトナムのカシュー産業は、原料となる生カシューナッツのアフリカへの依存を減らすため、ベトナム政府との協力のもと、未利用の土地が多いカンボジアとラオスで、カシュー農園の拡大を目指している¹⁹。2018年1月、Vinacasはカンボジア政府と、カンボジアの生カシューナッツ輸出を2017年の7.3万トンから2028年までに100万トンへ拡大するというMOUに調印した。そのために、Vinacasはカンボジア農林水産省に6万6千米ドルの資金を供与し、カシュー栽培面積を50万ヘクタールに拡大する計画である²⁰。これは、ヘクタール当たり2トンの試算である。2019年の全世界のカシューナッツ生産量は生カシューナッツの重量ベースで330万トン程度（カーネルベースで約79万トン）であり、もしカンボジアで100万トンの生産できれば、世界全体の1/4～1/3の生産シェアに当たる量である。すぐには実現しないであろうが、ベトナムのカシュー産業がカンボジアに、このレベルのカシューナッツ生産ポテンシャルがあると認識していることは注目に値する。

カシューナッツの栽培と加工において、ベトナムは世界でもインドやブラジルと並んで最も進んだ技術を持つ

¹⁶ Tuoi Tre News, 'Vietnam's Cashew Industry Turns to Cambodia', 15 January 2018

¹⁷ アフリカ産の生カシューナッツ価格は、2013～2014年の1,000米ドル/トンから2017年には2,200～2,300米ドル/トンに高騰している。

¹⁸ Cashew Export Promotion Council of India (CEPCI)の会長であるDr. R. K. Bhooles氏による第5回 World Cashew Convention & Exhibition 2019での発言。CashewInfo (2019), *The 5th Edition of the World Cashew Convention & Exhibition 2019 – Conference Summary*, 24-26 January 2019, Abu Dhabi, p.2

¹⁹ Vinacas 会長 Nguyen Duc Thanh 氏の発言。CashewInfo (2018), *The 4th Edition of the World Cashew Convention & Exhibition 2018 – Highlights*, 1-3 February 2018, Macau, p.3

²⁰ Phnom Penh Post, Ministry Has Big Plans for Cambodia's Cashews, 31 January 2018

ており、カンボジアはベトナムからの技術を積極的に導入しながら、アフリカ産にはない高品質な生カシューナッツの生産を拡大することは、将来的にカンボジア国内で競争力のある加工業を発展させる強固な基盤となる。

7.2 カシューカーネル市場(アメリカ・ヨーロッパ): 品質管理・有機・トレーサビリティ

カシューナッツ加工に適用される国際的な食品安全基準には、HACCP、ISO22000(食品安全)、BRC などがあり、アメリカやヨーロッパなどの先進国市場に輸出する際は、これらの基準に準拠していなければならない。国際的なカシューカーネル買い付け業者によれば、カシューナッツにおける最大の食品安全リスクは、ガラスや金属などの異物が混入することであるが、国際的な食品安全基準を厳守していれば回避できる問題である²¹。カンボジア国内でも、大手加工業者であるサンタナ社は HACCP や ISO22000 などの認証を取得済みである。

欧米に輸出するカシューナッツについては、サプライチェーンの透明化、トレーサビリティの要求も高まっている。EU におけるトレーサビリティは、1996 年のイギリスにおける狂牛病(BSE)に端を発し、2005 年 1 月から、一般食品法の一環として、EU 全体で義務化されている。EU の法的な観点では、トレーサビリティの要件は、企業が少なくとも問題の製品の直接の供給者とその直後の受領者を特定できるようにすることに限定されている。しかし、実際には、EU の輸入業者は、しばしば法的要件を超えて、トレーサビリティシステムの適用を取引先に要求することが多くなっている。

消費国におけるカシューカーネルの輸入業者は、多くの場合、卸売業者でもある。輸入業者・卸売業者は、消費者に販売するため、カシューナッツを加工・包装する 2 次加工業者に販売する。輸入業者・卸売業者のなかには、自らの加工・包装設備を持つところもあり、小売市場や食品サービス業へ直接販売も行っている。消費国の輸入業者は既に多くの信頼できる供給業者との取引を長年、安定的に行っており、新規輸出業者が新たに取引を始めるのは容易ではない。新規業者が新たに参入するためには、同じ品質の商品であれば、既存の競合業者より低い価格を提供するか、商品を差別化する必要がある。先進国の輸入業者や食品加工業者は、小売店から常に価格を引き下げる圧力に晒される立場である。価格以外にも、有機、フェアトレードなどの付加価値を要求されている。

有機カシューナッツは、2000 年代初頭に、アメリカとヨーロッパという 2 つの先進有機市場で売られるようになった。これら有機カシューナッツの産地は、インド、ブラジル、スリランカなどであったが、2010 年代に入ると、ベトナムやいくつかのアフリカ、南アメリカ諸国でも生産されるようになった。ただし、有機カシューナッツ市場は当初は急速な成長が見られたものの、2010 年代に入ると成長は鈍化した。有機カシューナッツの非有機カシューナッツに対する価格プレミアムは当初 25~30%あったが、近年は 10~15%に低下している。

2018 年、EU は新しい有機規制の基本法を採択した。この基本法は 2021 年に発効する予定である。2018 年基本法を実施するため、2018 年から 2020 年にかけて、生産、ラベリング、管理と貿易に関する実施規則の整備が行われている²²。

国際フェアトレード認証ラベルのライセンス事業や製品認証事業を行っている国際フェアトレード・ラベル機構(Fairtrade International)は、2009 年、ナッツ類についても、その売買に関する特別の標準を定め、2011 年に改定している。この標準では、カシューナッツ加工施設の労働者に対する保護措置を定義している。また、この

²¹ GIZ/ComCashew (2019), *Guidelines on Food Safety, Traceability and Sustainability in Cashew Processing*, Cashew Processing Guides Number 5, p.1

²² FiBL & IFOAM Organic International (2020), *The World of Organic Agriculture: Statistics & Emerging Trends 2020*, September 2020, p.150

標準は、アフリカ産の有機・非有機のカシューカーネルに対する支払い条件とフェアトレード最低価格を定めている²³。

世界最大のカシューナッツの加工業者である Olam 社は、有機やフェアトレード生産でも先駆的な役割を果たしている。Olam 社によれば、同社は 2015 年と 2016 年にそれぞれ 4,400 トンと 7,000 トンのデュアル認証（オーガニックとフェアトレード両方の認証）カシューナッツを、コートジボワールの 3 つの加工工場で生産した。そのほとんどは、アメリカの Whole Foods に販売された。それ以外にも、Olam 社は、フェアトレードあるいはオーガニック認証のカシューナッツを、Nestle、Kraft Foods、Unilever、General Mills に供給している²⁴。

近年、ベトナムやインドでも有機認証を受けたカシューナッツの栽培を一部行っている。しかし、ベトナムやインドで加工するカシューナッツは、原料の多くをアフリカ諸国に頼っているため、有機認証取得や欧米輸入業者のトレーサビリティ要求に応えることが難しい。もし、カンボジアの加工業者が、国内産のカシューナッツを用いて、トレーサビリティシステムを構築・運用し、有機認証を取得した生カシューナッツを使用できれば、消費国のカシューカーネル輸入業者にとって魅力的な商品となりうる。

7.3 新興消費市場としての中国：改正食品安全法(2018)への対応

中国では、1995 年に「食品衛生法」が施行されたが、その後、中国社会を大きく揺るがす食品安全事件が相次いで発生したため、食品衛生の保証より食品安全の確保が急務となり、2009 年 2 月に「食品安全法」が公布、同年 6 月に施行された。その後、「食品安全法」は 2015 年と 2018 年に 2 度の改正が行われている。食品の安全に係る法律としては「農産物品質安全法」や「輸出入商品検査法」等も存在するが、食品安全法は中国における食品安全管理体系の中核を担っている。食品安全法を根拠法として、「食品安全法实施条例」、「食品安全サンプル採取検査管理弁法」、「北京市食品安全条例」、「食品添加物使用記述」などの食品安全に関する各行政法規、部門規則、地法規、国家基準が数多く制定されている²⁵。

2018 年改正の食品安全法に基づき、2019 年 10 月に改正された「食品安全法实施条例」が公布、同年 12 月より実施されている。2019 年改正の食品安全法实施条例では、第 18 条で、企業は食品安全トレーサビリティシステムを構築するという要求が新たに追加されたほか、第 48 条で、食品輸入業者は中国国外の輸出業者、中国国外の生産企業について審査を行い、審査内容には具体的に食品安全リスクマネジメント措置の策定および実行の状況等が含まれることが規定されている²⁶。

こうした中国における食品安全に関する一連の法整備と実施体制の強化によって、これまで陸路で輸送されていたベトナム産カシューナッツも、その影響を大きく受けたといわれる。

したがって、アメリカやヨーロッパ諸国のような既存のカシューカーネル市場だけでなく、中国のような新規のカシューカーネル市場を開拓し、これら新旧カシューカーネル市場で付加価値を高めるためにも、適切な農薬管理、ポストハーベスト処理、食品加工管理、トレーサビリティシステムの構築を含めた品質管理の向上が欠かせない。カンボジア国内で、トレーサビリティ可能な高品質の生カシューナッツを大量に生産することは、将来的にカンボジアが付加価値の高い高品質のカシューカーネル生産を行うための加工業を構築する上での基盤となるに違いない。

²³ Fairtrade International (2011), *Fairtrade Standard for Nuts for Small Producer Organizations, Version 1.3*, 2011

²⁴ TDC (2018), *How Fairnameese cashew nuts can conquer a solid position in the world market – Developing supply and markets for fairtrade cashew nuts from Vietnam*, Leeuwarden-Hanoi-Brussels, March 2018, pp.25-26

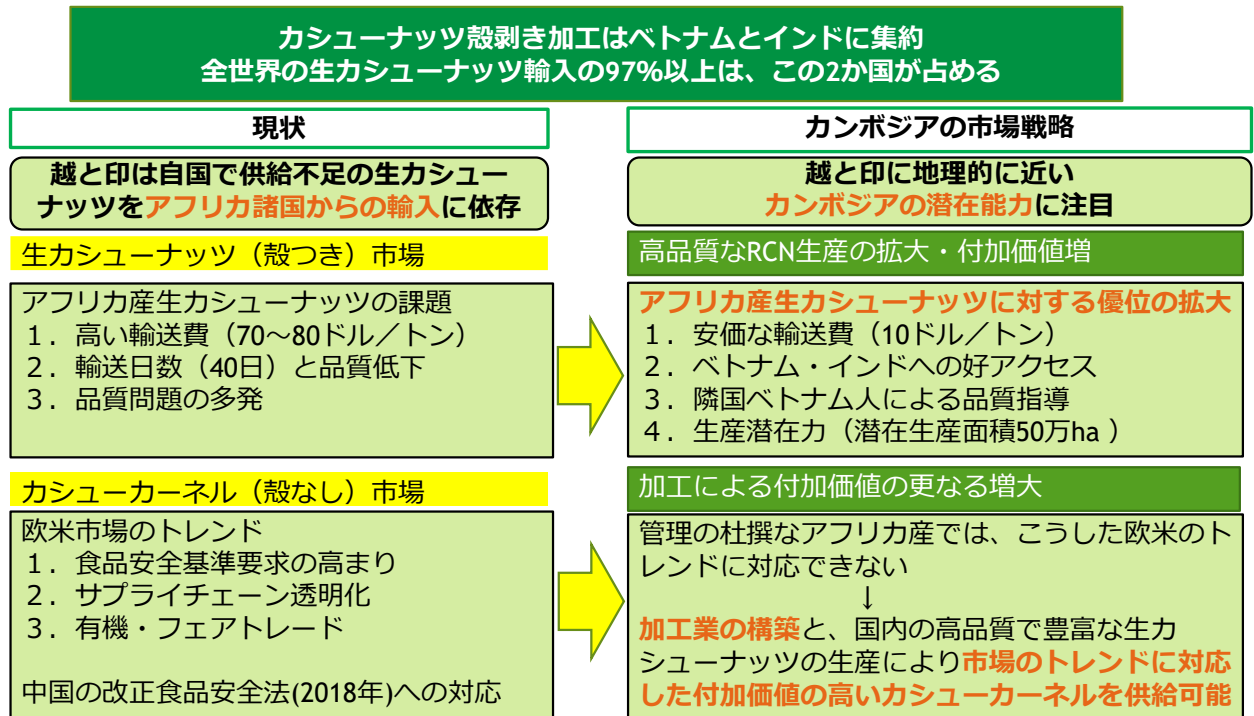
²⁵ 日本貿易振興機構 (2020) 「改正中国食品安全法实施条例の解説」、国際貿易振興機構 農林水産・食品部、農林水産・食品課、北京事務所、pp.1-2

²⁶ 日本貿易振興機構 (2020) p.4, p.8

7.4 カンボジア産カシューナッツ産業の現状と市場戦略

以上を取りまとめたカンボジアカシューナッツ産業の現状と市場戦略について、次頁の通り整理した。

カンボジア産カシューナッツは、大きく味も遜色ない。今後、安定した出荷量及び品質が確保でき、加工業が構築されれば、付加価値が認められた形の販路を開拓することで、生産から加工まで自国で実施することのメリットを享受でき、付加価値の高いカシューカーネルの世界的な供給地として発展していくことが可能となる。



出典: 日本工営調査チーム作成

図 7.1 カンボジアカシューナッツ産業の現状と市場戦略